

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 108

2016年12月20日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、工学部の犬塚 博 先生です。

◆◆ CONTENTS ◆◆

1. 「グリーンサイエンスカフェ in はままつ」のご案内
2. 「地域課題から地方創造へ ～域学連携による学びの環づくりのために～」のご案内
3. 「静岡大学・中日新聞連携講座2016『浜松の過去・現在・未来』」のご案内
4. 「第2回博士キャリアフォーラム」のご案内
5. 「第4回HEPTコンソーシアムフォーラム」のご案内

1. 「グリーンサイエンスカフェ in はままつ」のご案内

平成25年4月に発足した「グリーン科学技術研究所」の教員が、研究者の夢や失敗談、ときには笑いを交えて個々の研究を紹介します。コーヒーを片手に、科学の話題に耳を傾けてみませんか？

【日 時】・第2回 12月24日（土）14：00-15：30
・第3回 2月18日（土）14：00-15：30

【場 所】 浜松科学館 1F講義室
〒430-0923 浜松市中区北寺島町256-3

【定 員】 100名（事前申込先着順）
【対 象】 中学生、高校生、大学生、一般市民

□■講座内容■□

- ・第2回 12月24日
（講師） 齋藤隆之 教授
セミから地球と科学を考えてみよう！
- ・第3回 2月18日
（講師） 原 正和 教授
植物にもストレスってあるの？

【申込み方法】以下の3通りです。

- (1) Web申込み
浜松科学館ウェブサイトから申込み
<http://www.hamamatsu-kagakukan.jp/kouza.html>
- (2) 往復はがき
送付先：〒430-0923 浜松市中区北寺島町256-3
浜松科学館「静岡大学グリーンサイエンスカフェ」係

しずだい産学連携メールマガジンVol108
往信に①郵便番号②住所③氏名（ふりがな）④電話番号⑤希望の講座
（複数応募可）を記入してください。
返信に宛先を記入してください。

(3) 事務室

浜松科学館1F事務室にて申込みください。
※その際に、返信はがき代として52円をいただきます。

【問合せ】

浜松科学館 E-mail : hames[at]hamamatsu-kagakukan.jp
Tel : 053-454-0718

2. 「地域課題から地域創造へ ～域学連携による学びの環づくりのために～」のご案内

地域の様々な課題を公募し、その解決支援を試みる静岡大学の「地域課題解決支援プロジェクト」が立ち上がり、県内各地で活動を展開しました。今年度は学生を地域に継続的に受け入れていただく第2期公募が行われ、多くの自治体・NPOから応募がありました。

今回は、これまでのプロジェクトの、地域・大学双方の関係者を集めた公開シンポジウムを開き、県内の取組み事例を報告しながら、地域と大学が連携・協働することによってどのような学びの環（わ）ができつつあるか、その課題と可能性を探ります。

【日時】 2016年12月27日（火）12：45～16：00
【場所】 静岡大学静岡キャンパス共通教育A棟301
（静岡市駿河区大谷836）

【参加費】 無料

【申込】 お申込みは不要です。当日会場までお越しください。

□■プログラム■□

■ 地域連携・課題解決支援の事例報告

- ・報告1 「三保の松原における地域づくりの課題と可能性」
三保の松原フューチャーセンター 前島 國治
NPO法人羽衣村 宮城嶋 史人
- ・報告2 「学生参画による地域連携の取組み」
静岡大学学生支援センター 宇賀田 栄次
静岡大学フューチャーセンターディレクター
- ・報告3 「松崎町における地域づくりの課題と可能性」
松崎町企画観光課 深澤 準弥
- ・報告4 「東伊豆町における学生参加のまちづくり」
東伊豆町地域おこし協力隊 荒武 優希

■ パネルディスカッション

パネリスト：報告者、課題提案者

コメンテーター：平岡義和（地域創造学環長）

コーディネーター：阿部耕也（イノベーション社会連携推進機構）

【主 催】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 地域連携生涯学習部門

【問合せ】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 地域連携生涯学習部門
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
TEL:054-238-4817
E-mail : LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

3. 「静岡大学・中日新聞連携講座2016『浜松の過去・現在・未来』」のご案内

今年度の静岡大学・中日新聞連携講座は、大河ドラマのテーマとなる井伊直虎の実像、平成の大合併にともなう浜松のまちづくりの課題と展望、様々なイノベーション（技術革新・社会変革）の展開など、多様な切り口から浜松という地に焦点を当てる全5回です。静岡大学が誇る講師陣が、遠江の時代からものづくりの最先端都市まで、浜松の過去・現在・未来を展望します。

【日 時】 2017年1月17日（火曜日18:00～19:30）
【会 場】 静岡大学浜松キャンパス 附属図書館浜松分館（S-Port）3階大会議室

【定 員】 100人（申込先着順）
【参加費】 無料

【申込方法】 氏名（ふりがな）、住所、年齢、電話番号、講座名、参加される回を明記して
FAX・メール・葉書のいずれかによりお申し込みください。

【申込先】 FAX : 054-252-0310
メール : LLC*ipc.shizuoka.ac.jp（*を@に変えてください）
葉書 : 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
静岡大学イノベーション社会連携推進機構 連携講座係

【第5回】1月17日（火）

「太陽光・排熱を電気へ変換 ～エネルギーハーベスト材料の開発～」
（講師）早川 泰弘（電子工学研究所・教授）

■概 要■

クリーンな自然エネルギーへの注目が高まり、無尽蔵な太陽光エネルギーを利用する太陽電池や、発電の際に無駄に捨てられている排熱を有効利用する熱電デバイスの研究が盛んに行われています。このようなエネルギーハーベスト（太陽光や照明光、機械の発する振動、熱などのエネルギーを採取=ハーベストし、電力を得る技術）の開発は、二酸化炭素排出量削減や持続可能な低炭素社会の実現に不可欠であり、浜松でもその先端技術に関する研究が進められています。太陽電池材料や熱電デバイス材料の開発について紹介します。

【問合せ】 静岡大学イノベーション社会連携推進機構 地域連携生涯学習部門
TEL : 054-238-4817（平日9:30～16:00）
メール : LLC[at]ipc.shizuoka.ac.jp

【主催】 静岡大学、中日新聞東海本社
【詳細】 <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/event002552.html>

4. 「第2回博士キャリアフォーラム」のご案内

平成28年度博士人財キャリア創造プログラム第2回博士キャリアフォーラムを下記日程にて開催いたします。本センターのセミナーはポストドクター、博士課程学生を対象に業界の最新情報や、今後のキャリアを考える上で役立つ知識をお届けしています。

ぜひとも多くの方のご参加をお待ちしています。

【日時】 2017年1月24日（火）14：00～16：30
【場所】 スズキ歴史館
静岡県浜松市南区増楽1301
※13：20 静岡大学S-port前よりマイクロバスにて出発

【対象】 ポストドクター&博士課程学生&修士課程学生&教職員
(他大学・研究所の方の参加も歓迎)

□■テーマ■□

「スズキのものづくりとグローバル化」
Suzuki's "Monozukuri" (Manufacturing) and global business development

■講師 スズキ株式会社

技術管理本部本部長 山岸重雄氏
技術管理本部技術教育課長 宮井研二氏

【申込先】 下記応募フォームよりお申込ください

<https://www.pdcc.shizuoka.ac.jp/event/seminar-form/>

参加イベント名は、「1/24セミナー」と入力してください。
自動受付完了返信メールが届かない場合は、センターメールアドレスにご連絡ください。
dcareer@adb.shizuoka.ac.jp

【受付締切】 2017年1月18日（水）

【問合せ】 静岡大学 博士キャリア開発支援センター
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 (静岡オフィス)
TEL&FAX : 054-538-3035

〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 (浜松オフィス)
TEL053-478-1447 FAX053-478-1449

URL : <http://www.pdcc.shizuoka.ac.jp/>

5. 「第4回HEPTコンソーシアムフォーラム」のご案内

組込みソフトウェア技術コンソーシアム（HEPTコンソーシアム）設立4周年を記念し、第4回HEPTコンソーシアムフォーラムを開催いたします。本フォーラムでは、発展する組込みシステム技術の今後と将来への対応を考えながら、HEPTコンソーシアムの取組みがどのように地域製造業の高度化を担う皆様のお役に立っていただけるかを一緒に考えていただく機会といたしたく存じます。

フォーラム終了後は、基調講演者、講演者を交えた交流会を予定しております。そちらもどうぞよろしく願いいたします。

【日 時】 2017年1月25日（水）
【場 所】 プレスタワー17階 静岡新聞ホール
（静岡県浜松市中区旭町11-1）

【参加費】 無 料
【定 員】 120名

【申込終了】 2017年1月18日（水）

【申込先】 <http://bit.ly/hept-4thforum>

□■プログラム■□

15:00 開会
15:00～15:10 主催者挨拶

■ 基調講演
15:10 ～ 16:20
「高信頼性・安心・安全なソフトウェア開発の動向と対応について」
パナソニック アドバンステクノロジー株式会社
開発本部 高信頼性開発センター 所長 兼 先行基盤開発室 室長 磯貝 典仙 氏

■ 講 演
16:30 ～ 17:30
「ヤマハ株式会社におけるAIへの取り組み」
ヤマハ株式会社 研究開発統括部 第1研究開発部 知的音楽システムグループ
主事 博士（情報学） 前澤 陽 氏

■ 事業報告
17:30 ～ 18:00 「平成29年度事業説明」
組込みソフトウェア技術コンソーシアム 理事長 増田洋介
静岡大学情報学部 教授 塩見彰睦

18:30 ～ 「情報交流会」
基調講演・講演者を交えた懇親会をバールマブチにて予定しております。
こちらどうぞご参加ください。

◇懇親会費4,000円

【主催】 浜松市 組込みソフトウェア技術コンソーシアム 浜松科学技術研究振興会
静岡大学

【問合せ先】 静岡大学情報学部内 組込みソフトウェア技術コンソーシアム事務局
TEL:053-478-1577
E-Mail : hept[@]inf.shizuoka.ac.jp

《 みんなのコラム -102- 》

記：工学部 電気電子工学科 教授 犬塚 博

私は大学での研究者としての道を歩み始めて以来、数多くの産学連携活動に携わってきた。数だけならば静大でも共同研究をかなり多く実施してきた方に分類されるだろうし、コーディネータを経由せず直接に相談に来られる企業様も多い。

昨今は、国立大学への運営交付金の露骨な減少から、今後は産学連携による研究費に期待したいという声をよく耳にする。産学連携を普段から行い大学の立場も企業の状況も分かる人間からすると、その考えは正しいのだが現状では双方に問題があってそう簡単ではないという気がする。

企業側は特に最近あまりにすぐに役立つ即効性の技術ばかりを求め過ぎている。「オープンイノベーション」という言葉が流行り、技術のアウトソーシングが流行しているが、企業のニーズに直接役立つ技術の提供は他企業はまだしも大学では殆どあり得ない。それは大学では具体的な特定ケースを対象とした研究は実施されておらず、汎用的・一般的な技術を研究しているからである。より広い分野で応用される研究が良い研究と考える文化もある。私は企業様からの問い合わせや要請に応じて研究や実験や調査を実施して研究レポートを提出することも多いが、最近是不採用ということか返事も頂けない企業様があまりに多い。しかし、大学としては、そのうまくいかない所がスタートポイントと考えているのである。そこから、一緒になって何とかすることを計画している。実際に私が実施できて成果をあげられた共同研究も殆ど例外なく最初はうまくいかない。それを一緒になって試行錯誤して頂けた場合のみが成果に繋がっている。やる前からうまくいくことが分かっていることは研究ではない。したがって、企業側にはある程度の粘り強さを期待したい。

大学側は、ともかく柔軟性が必要である。大学の問題点はセクショナリズムである。互いの専門分野に敬意を表して他分野のことには口を挟まないという文化がある。又、自分の知らないことを聞かれてそれに答えられないと恥だとする気持ちが強過ぎる。その結果、自分の専門からほんの僅かでも外れると共同研究に手を出さない。これは全く勿体無いことである。現在の産学連携で必要となる技術は、狭い専門分野に留まらない場合が多い。又、これからの面白い分野は境界領域の研究である。やや専門分野が違っていても、その新しい視点からの研究が画期的な成果に繋がることと思われる。

この様に産学連携をさらに進めるには、現状では双方に問題があると言わざるを得ないが、どちらの問題点も姿勢の問題なので僅かな努力で解消可能である。双方の僅かな歩み寄りから静大の産学連携がさらに発展していくことを期待したい。

<< 編集後記 >>

地上と宇宙をつなぐ「宇宙エレベーター」の実現を目指して、本学工学部の山極教授と能見教授の研究チームが開発した、超小型衛星STARS-C（はごろも）を搭載した、宇宙ステーション補給機「こうのとり」6号機が12月9日（金）、鹿児島島の種子島宇宙センターから打ち上げられました。そして13日午後7時40分ごろ、宇宙飛行士によりロボットアームでキャッチされ、高度約400キロの国際宇宙ステーションに無事到着しました。「はごろも」は、地上から宇宙へ人や物資を乗せて運ぶ「宇宙エレベーター」構想に必要な、エレベーターのケーブルがうまく伸展するかを確認するというミッションを行います。

地球と宇宙を物理的に結ぶという夢のような話が、現実に向けて第一歩を踏み出しており、さらには本学の先生方が参画していると思うと、胸が高鳴ります。皆さまも今後のニュースにご注目ください。

* - *

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・配信中止のご連絡は、[sangakukoho5\[at\]cjr.shizuoka.ac.jp](mailto:sangakukoho5@cjr.shizuoka.ac.jp) までお願いします。（↑送付の際は[at]を@に変更してください。）

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション社会連携推進機構

編集：宮下真紀子
発行責任者：木村雅和

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL 053-478-1703
URL <http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>

* - *

Copyright (c) 2008-2016
Organization for Innovation and Social Collaboration,
Shizuoka University. All rights reserved